

1 キャリア教育／ふるさとキャリア教育

キャリア教育

児童生徒一人一人の発達を支える観点から、平成29年3月に公示された小学校学習指導要領、中学校学習指導要領に、キャリア教育の充実と教育課程の関係について明記された。その記述は以下のとおりである。なお、ここでいうキャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促す教育」である。また、キャリア発達とは、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」をいう。

小学校学習指導要領 総則 第4 1(3)

児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

中学校学習指導要領 総則 第4 1(3)

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。



前半の記述では、小学校と中学校が共通しています。下線部の記述で、中学校においては、キャリア教育が進路指導を含むことを明記しています。

【キャリア教育が必要となった背景と課題】

《背景》

- ・情報化・グローバル化・少子高齢化・消費社会等を背景とした子どもたちが育つ社会環境の変化
- ・産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等をもたらす子どもたち自らの将来の捉え方の変化

《課題》

- ・人間関係をうまく築くことができない
- ・自分で意思決定できない
- ・自己肯定感をもてない
- ・将来に希望をもつことができない

子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにするキャリア教育の充実が求められています。



中央教育審議会答申（以下、中教審答申）（平成28年12月21日）では、キャリア教育について次のような指摘があります。

- ・職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか
- ・社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか
- ・職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点に乏しく、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提に指導が行われているのではないか
- ・将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか



1 キャリア教育で育成をめざす資質・能力

○キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」（「基礎的・汎用的能力」とは、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである）

【人間関係形成・社会形成能力】	【自己理解・自己管理能力】
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
【課題対応能力】	【キャリアプランニング能力】
仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

- ・4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある
- ・4つの能力は、すべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない
- ・どのようなまとまりで、どの程度身につけさせるかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なる

2 教育課程編成上のポイント

【キャリア教育の目標設定にあたって】

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促す教育」であり、これら能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促すことを目指すものである。したがって、キャリア教育の定義をキャリア教育の目標に置き換えることができる。なお、各学校の目標設定にあたっては、地域・学校の特色を生かし、児童生徒の実態とキャリア教育で育成を目指す資質・能力とを整理した上で設定することが重要である。

下の表は、「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達」を示しています。これを参考に、系統性を踏まえた指導をすることが重要です。



	小学校	中学校	高等学校	大学・専門学校・社会人
	〈 キャリア発達段階 〉			
就学前	進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と 暫定的選択の時期	現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、あこがれる自己のイメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観、職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加 	

【教育課程編成にあたって】

【特別活動を要とする】	【学校と社会との接続を意識する】
<p>学級活動を中核としながら、総合的な学習の時間や学校行事、特別の教科 道徳や各教科における学習を生かす。</p> <p>例) 小学校 第5学年 特別活動「よりよい学級づくり」(学級活動 2内容(3))</p>	<p>次の学校段階への進学のみを見据えた指導ではなく、職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点をもつ。</p> <p>例) 中学校 第3学年 特別活動「人はなぜ働くのか」(学級活動 2内容(3))</p>
<p>小・中・高等学校を見通した、かつ、学校の教育活動全体を通じた取組</p>	
<p>教科・科目等の学習指導において、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しや振り返りを意識する。</p> <p>例) 中学校 第3学年 社会「よりよい社会をめざして」(D私たちと国際社会の諸課題(2))</p>	<p>各学校が育成を目指す資質・能力を共有し、地域全体で子どもの社会的・職業的自立に向けた基盤を作っていく。</p> <p>例) 小学校 第4学年 社会「住みよいくらしをつくる」(2内容(5))</p>
【見通しを持ったり振り返ったりする】	【地域との連携・協働を進める】

【学習や生活の見通しを立て、振り返る教材の活用について】

中教審答申(平成28年12月21日)では、「小・中・高等学校を見通した、かつ、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図るため、キャリア教育の中核となる特別活動について、その役割を一層明確にする観点から、小・中・高等学校を通じて、学級活動・ホームルーム活動に一人一人のキャリア形成と実現に関する内容を位置付けるとともに、『キャリア・パスポート(仮称)』の活用を図ることを検討する」とされている。これは、新学習指導要領で「児童(生徒)が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」とされており、こうした活動を行うに当たっては、振り返って気付いたことや考えたことなどを、児童生徒が記述して蓄積する、いわゆるポートフォリオ的な教材のようなものを活用することを示している。その意義として、以下の三つが挙げられる。



- 1 **キャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になる**
 - ・各教科等の学びと特別活動における学びが往還し、教科等の枠を超えて、それぞれの学習が自己のキャリア形成につながっていくこと。
- 2 **小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資する**
 - ・都道府縣市町村内あるいは中学校区内の小学校、中学校において、連続した取組が可能となるよう教材等の工夫や活用方法を共有。
- 3 **児童生徒にとっての自己理解、教師にとっての児童生徒理解を深めるためのものとなる**
 - ・児童生徒にとっては、現在に至るまで、どのように成長してきたかを把握することができる。それを基に教師と対話をしたり児童生徒同士の話し合いを行ったりすることを通して自分自身のよさ、興味関心など、多面的・多角的に自己理解を深める。教師にとっては一人一人の児童生徒の様々な面に気付き、児童生徒理解を深める。

3 新学習指導要領におけるキャリア教育

新学習指導要領における「キャリア教育」について育成を目指す資質・能力に関する各教科等の内容（主要なものを抜粋）

小学校	中学校
<p>●総則 第4の1 (3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。</p>	<p>●総則 第4の1 (3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。</p>
<p>●国語科（第2 各学年の目標及び内容） ＜第3学年及び第4学年＞ 2A(1)オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ＜第5学年及び第6学年＞ 2C(2)イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。</p>	<p>●国語科 〈第2学年〉（第2 各学年の目標及び内容） 1(2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 〈第3学年〉（第3 指導計画の作成と内容の取扱い） 3(2)オ 人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つこと。</p>
<p>●社会科（第2 各学年の目標及び内容） ＜第3学年＞ 2(2)ア(ア) 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。 2(3)ア(ア) 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。 ＜第4学年＞ 2(4)イ(イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。 2(5)ア(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。 ＜第5学年＞ 2(2)イ(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。 2(3)イ(イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。 2(4)イ(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役</p>	<p>●社会科（第2 各分野の目標及び内容） 【地理的分野】 2B(1)ア(イ) 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際、世界の主な宗教の分布についても理解すること。 2C(4)イ(ア) 地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。 【歴史的分野】 2A(2)イ(ア) 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること。 2C(2)イ(イ) これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。 3(1)オ 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考察させるようにすること。その際、歴史に見られる文化や生活の多様性に気付かせること。 【公民的分野】 2A(1)イ(ア) 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する</p>

<p>割を考え、表現すること。</p> <p>2(5)ア(ウ) 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。</p> <p><第6学年></p> <p>2(1)イ(イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p> <p>2(2)イ(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。</p> <p>2(3)イ(イ) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。</p>	<p>こと。</p> <p>2A(2)ア(イ) 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解すること。</p> <p>2B(1)ア(エ) 勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質について理解すること。</p> <p>2B(2)ア(イ) 財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解すること。</p> <p>2D(2)ア 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述すること。</p> <p>3(1)エ 合意形成や社会参画を視野に入れながら、取り上げた課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現できるよう指導すること。</p> <p>3(2)ア(ア) 「情報化」については、人工知能の急速な進化などによる産業や社会の構造的な変化などと関連付けたり、災害時における防災情報の発信・活用などの具体的事例を取り上げたりすること。ア(イ)の「現代社会における文化の意義と影響」については、科学、芸術、宗教などを取り上げ、社会生活との関わりなどについて学習できるように工夫すること。</p>
<p>●算数（第2 各学年の目標及び内容）</p> <p><第1学年></p> <p>1(3) 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。</p> <p><第2学年></p> <p>2A(1)イ(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。</p> <p><第3学年></p> <p>2B(1)イ(ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見いだし、身の回りのものの形を図形として捉えること。</p> <p><第4学年></p> <p>2C(2)イ(ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。</p> <p><第5学年></p> <p>[数学的活動]</p> <p>(1)ア 日常の事象から算数の問題を見い出して解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動</p> <p><第6学年></p> <p>[数学的活動]</p> <p>(1)ウ 問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p>	<p>●数学（第2 各学年の目標及び内容）</p> <p><第1学年></p> <p>2A(2)イ(ア) 具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現すること。</p> <p>2D(2)イ(ア) 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現すること。</p> <p>[数学的活動]</p> <p>(1)ウ 数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合う活動</p> <p><第2学年></p> <p>B(2)ア(イ) 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。</p> <p>C(1)ア(イ) 事象の中には一次関数として捉えるものがあることを知る。</p> <p><第3学年></p> <p>[数学的活動]</p> <p>(1)ウ 数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動</p>
<p>●理科（第2 各学年の目標及び内容）</p> <p><第3学年></p> <p>1(2)② 身の回りの生物、太陽と地面の様子について追究する中で、主に差異点や共通点を基に、問題を見出す力を養う。</p> <p><第4学年></p>	<p>●理科（第2 各分野の目標及び内容）</p> <p>[第1分野]</p> <p>2(1)ア 身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p>

<p>2A(2)イ 金属、水及び空気の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、金属、水及び空気の温度を変化させたときの体積や状態の変化、熱の伝わり方について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。</p> <p><第5学年></p> <p>2B(3)ア(ウ) 雨の降り方によって、流れる水の量や速さは変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があること。</p> <p><第6学年></p> <p>2A(3)ア(イ) 身の回りには、てこの規則性を利用した道具があること。</p> <p>2B(3)ア(ア) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。</p> <p>2B(3)ア(ウ) 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。</p>	<p>2(7)イ 日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見直しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。</p> <p>[第2分野]</p> <p>2(7)ア(イ)㉞ 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。</p>
<p>生活 (第2 各学年の目標及び内容)</p> <p><第1学年及び第2学年></p> <p>1(3) 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようにする。</p> <p>(2) 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。</p> <p>2(3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。</p> <p>2(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。</p> <p>2(9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。</p>	
<p>●音楽 (第2 各学年の目標及び内容)</p> <p><第1学年及び第2学年></p> <p>1(3) 楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。</p> <p><第3学年及び第4学年></p> <p>1(3) 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする</p>	<p>●音楽 (第2 各学年の目標及び内容)</p> <p><第1学年></p> <p>1(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p> <p><第2学年及び第3学年></p>

<p>る楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。</p> <p>＜第5学年及び第6学年＞</p> <p>1(3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。</p>	<p>1(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。</p> <p>(第3 指導計画の作成と内容の取扱い)</p> <p>2(1)オ 生徒が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、生徒や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。</p>
<p>●図画工作 (第2 各学年の目標及び内容)</p> <p>＜第1学年及び第2学年＞</p> <p>1(3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。</p> <p>＜第3学年及び第4学年＞</p> <p>2B(1)ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。</p> <p>＜第5学年及び第6学年＞</p> <p>2A(1)イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。</p>	<p>●美術 (第2 各学年の目標及び内容)</p> <p>＜第1学年＞</p> <p>1(3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p> <p>2Bイ(イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p> <p>＜第2学年及び第3学年＞</p> <p>1(3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p> <p>2A(1)イ(ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>2B(1)イ(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p>
<p>●家庭 (第2 各学年の内容)</p> <p>＜第5学年及び第6学年＞</p> <p>1A(1)ア 自分の成長を自覚し、家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。</p> <p>1A(2)ア 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解すること。</p> <p>1A(3)ア(イ) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。</p> <p>1A(4)ア 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。</p> <p>1C(2)ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。</p>	<p>●技術・家庭 (第2 各分野の目標及び内容)</p> <p>[技術分野]</p> <p>1(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p> <p>3(6)イ 知的財産を創造、保護及び活用しようとする態度、技術に関わる倫理観、並びに他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度を養うことを目指すこと。</p> <p>[家庭分野]</p> <p>2A(1)ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。</p> <p>2A(4)ア 家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。</p> <p>2B(7)ア 食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。</p>

<p>●体育（第2 各学年の目標及び内容） <第1学年及び第2学年> 1(3) 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。 <第3学年及び第4学年> 1(3) 各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。 <第5学年及び第6学年> 1(3) 各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。</p>	<p>●保健体育（第2 各学年の目標及び内容） <体育分野 第1学年及び第2学年> 1(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。 <体育分野 第3学年> 1(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。 [保健分野] 1(3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。 2(2)ア(ウ) 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。 2(4)ア(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。</p>
<p>●外国語（第2 各言語の目標及び内容等） 英語 3(1)オ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。</p>	<p>●外国語（第2 各言語の目標及び内容等） 英語 3(2)ク 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。</p>
<p>●特別の教科 道徳（第2 内容） C〔勤労、公共の精神〕 <第1学年及び第2学年> 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。 <第3学年及び第4学年> 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。 <第5学年及び第6学年> 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。 D〔よりよく生きる喜び〕 よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じることを。</p>	<p>●特別の教科 道徳（第2 内容） C〔勤労〕 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。 C〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。 C〔我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度〕 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。 D〔よりよく生きる喜び〕 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。</p>
<p>●外国語活動（第2 各言語の目標及び内容等） 英語 2(2)ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、</p>	

<p>簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。</p> <p>2(2)イ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。</p> <p>2(3)①イ(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。</p> <p>2(3)②ア(ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面 ア(ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面 ・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 ・子供の遊び など</p>	
<p>●総合的な学習の時間（第2 各学校において定める目標及び内容）</p> <p>3(3) 各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。</p> <p>3(6)ウ 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること</p> <p>3(7) 目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるものとなるよう配慮すること。</p>	<p>●総合的な学習の時間（第2 各学校において定める目標及び内容）</p> <p>3(3) 各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。</p> <p>3(6)ウ 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。</p> <p>3(7) 目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるものとなるよう配慮すること。</p>
<p>●特別活動（第2 各活動・学校行事の目標及び内容）</p> <p>【学級活動】</p> <p>2(3)一人一人のキャリア形成と自己実現</p> <p>ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする。</p> <p>イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。</p> <p>ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 学ぶことの意義や現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。 (第5学年及び第6学年)</p> <p>3(2) 2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。</p> <p>【児童会活動】</p> <p>2(1)児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営 児童が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。</p>	<p>●特別活動（第2 各活動・学校行事の目標及び内容）</p> <p>【学級活動】</p> <p>2(3)一人一人のキャリア形成と自己実現</p> <p>ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること。</p> <p>イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 社会の一員としての自覚や責任を持ち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。</p> <p>ウ 主体的な進路の選択と将来設計 目標をもって、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えること。</p> <p>3(2) 2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。</p> <p>【生徒会活動】</p> <p>2(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。</p> <p>【学校行事】</p>

<p>【学校行事】</p> <p>2(5) 勤労生産・奉仕的行事 勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。 (第3 指導計画の作成と内容の取扱い)</p> <p>2(3) 学校生活への適応や人間関係の形成などについては、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング（教育相談を含む。）の双方の趣旨を踏まえて指導を行うこと。特に入学当初や各学年のはじめにおいては、個々の児童が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活できるよう工夫すること。あわせて、児童の家庭との連絡を密にすること。</p>	<p>2(5) 勤労生産・奉仕的行事 勤労の尊さや生産の喜びを体得し、職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。 (第3 指導計画の作成と内容の取扱い)</p> <p>2(3) 学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などについては、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング（教育相談を含む。）の双方の趣旨を踏まえて指導を行うこと。特に入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活できるように工夫すること。あわせて、生徒の家庭との連絡を密にすること。</p>
--	--

4 教科等単元配列例

		4月	5月	6月	7月	9月	
小学校	1年	(特) とうぼんとかかり (特) みんななかよしの会をしよう	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学年始まりは、子どもたちが夢や希望をもって進級しています。1年後にどのような姿を目指すか、子どもたちと共有することが大切です。 </div>		(道) ぼくは、きゆうしよくとうぼん (特) 愛校活動	(道) じしんがおきて	
	2年	(道) わたしの学校 (特) とうぼんとかかり (特) 学級目標を決めよう			(道) 森のみんなと (特) 愛校活動	(生) 町にははっけんがいっぱい (道) みんなのニュースがかり	
	3年	(国) 自分をしようかいしよう (特) 当番と係 (特) 学級目標を決めよう		(道) フローレンス・ナイチンゲール物語	(道) わらじ作り (特) 愛校活動	(社) 店ではたらく人 (道) 鬼太郎をかいだゲゲさん	
	4年	(社) 火事からくらしを守る →新学習指導要領では第3学年の指導内容となる (特) 当番と係 (特) 学級目標を決めよう	(社) 事故や事件からくらしを守る	(道) へこたれないきせきの人ご	(国) 走れ (道) かべに付けた手のあと (特) 愛校活動	(社) ごみのしよりと利用	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 社会科で情報について学習することに合わせて、道徳で東日本大震災直後に手書きで新聞を発行した記者たちの理解を図るだけでなく、働くことの意義を理解するとともに、周りの人々と協働しながら、よりよい人生 </div>						
	5年	(家) わたしと家族の生活 (特) 係活動の計画を立てよう (特) 委員会の仕事 (特) 学級目標を決めよう		(家) かたづけよう身の回りの物 (道) 植物とともに 牧野富太郎	(社) わたしたちの生活と食料生産 (家) やってみよう家庭の仕事 (道) 森の絵 (特) 愛校活動	(社) わたしたちの生活と食料生産 (道) 日本の「まんのがの神様」	
6年	(家) わたしの生活時間 (特) 係活動の計画を立てよう (特) 委員会の仕事 (特) 学級目標を決めよう	(道) 食べ残されたえびになみだ	(理) 植物のつくりとはたらき (家) クリーン大作戦 (道) 米作りがアフリカを救う	(社) 国の政治のしくみ (理) 生物どうしのつながり (家) クリーン大作戦 (道) マザー・テレサ (特) 愛校活動	(道) ミッキー・マウスの誕生 (特) 心に残る修学旅行にしよう		
中学校	1年	(家) わたしたちと家族・家庭と地域 (特) 中学生になって (特) 生徒総会 (特) 委員会、係活動の充実を図ろう	(地) 世界各地の人々の生活と環境 (家) 環境に配慮した消費生活	(国) 「好きなもの」を紹介しよう	(道) そうじの神様が教えてくれたこと (特) 地域清掃活動	(道) 伝統文化に夢をもって (特) 生徒会役員選挙	
	2年	(家) 家庭生活と消費、商品の選択と購入 (特) 2年生になって (特) 生徒総会 (特) 委員会、係活動の充実を図ろう	(国) 多様な方法で情報を集めよう～職業ガイドをつくる～ (家) よりよい消費生活のために (道) 歌の世界で太陽になりたい	(地) 世界と比べた日本の地域的特色 (特) 将来の生き方と職業	(道) あめ細工一石割定治 (特) 地域清掃活動 (特) 職場体験	(道) 金閣再建 黄金天井に挑む (特) 生徒会役員選挙	
	3年	(特) 最高学年になって (特) 生徒総会 (特) 委員会、係活動の充実を図ろう	(国) 社会との関わりを伝えよう (道) ボクは新人 (特) 人はなぜ働くのか	(歴) 世界の多極化と日本の成長 (歴) グローバル化が進む世界 (家) 幼児の生活と遊び	(道) 藤のとう (特) 地域清掃活動	(公) 人権と共生社会 (道) 尊い卵 (特) 生徒会役員選挙	

新学習指導要領に

※ (国) …国語 (社) …社会 (理) …理科 (生) …生活 (道) …特別の教科 道徳 (特) …特別活動

※例に取り上げた教科書 小学校国語：東京書籍 小学校社会：東京書籍 小学校理科：啓林館 小学校生活：大日本図書
中学校家庭：開隆堂 中学校道徳：学研

※教科等間相互の連携を図り、教科等横断的な視点で資質・能力を育むことが大切です。

この例では、特別活動で学校をよくするための清掃活動を行うのに合わせて、道徳で内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の「勤労、公共の精神」を扱っています。小学校第5・6学年の家庭科でも、関連した内容を配列しています。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	(国)「すきなものクイズ」をしよう		(特)ともだちのいいところさがし	(生)かぞくでいっしょにおしよがっ		(生)もうすぐ2年生 (道)大すきだから (特)ありがとう6年生
	(生)みんなのはっけんをあつめよう	(国)あそびのやくそくを話し合おう (生)町の人に伝えたい		(生)はっけん自分のよいところ (道)おらもいしゃになる (特)こんなにあつたよ わたしのいいところ	(生)自分のことをもっと知りた いな (道)ぞうさんの歌と絵	(生)ありがとうをとどけよう (特)もうすぐ3年生
	(社)農家(工場)の仕事<選 択単元> (理)かげのでき方と太陽の光	(国)グループで話し合おう	(特)互いのよき発見		(道)にんじんのかざり切り	(特)もうすぐ4年生
	(社)きょう土のはってんにつ くす	(社)きょう土のはってんにつ くす (理)ものの温度と体積	(道)石つっけんさん 宮沢賢 治 (特)学級オリンピックを開こう	(国)「ゆめのロボット」を作る (社)特色ある地いきと人々の くらし (理)もののあたたまり方	(理)水のすがた	(道)谷川岳に生きたドクター (特)もうすぐ5年生
話を学ぶことで、情報産業が国民の生活に大きな影響を及ぼし や社会を構築していこうとする態度を養います。						
	(社)わたしたちの生活と工業 生産 (特)よりよい学級づくり	(国)手塚治虫 (社)わたしたちの生活と工業 生産 (理)流れる水のはたらき	(社)情報化した社会とわたした ちの生活 (道)この思いをフェルトペン にたくして	(社)情報化した社会とわたした ちの生活 (家)じょうずに使おうお金と 物	(社)わたしたちの生活と環境 (道)もう一つの塔	(社)わたしたちの生活と環境 (家)家族とほっとタイム (特)もうすぐ6年生
	(道)光をともした「魔法の薬」	(国)町の幸福論 (道)小川笙船	(道)市民に愛される動物園 をめざして	(理)てこのはたらき (家)共に生きる生活 (道)熊野の森を守る 南方熊 楠	(国)プロフェッショナルたち (家)共に生きる生活 (道)ラグビー日本代表のか がやき	(社)世界の未来と日本の役 割 (家)成長したわたしたち (特)卒業を前に
において、6年生社会科では、政治と歴史を学ぶ順番が入れ替わりします。						
	(道)長縄跳び (特)自分のよさの発見 (特)合唱コンクールを成功さ せよう	(家)健康と食生活	(道)二度と通らない旅人	(特)将来の生き方と進路計 画	(道)つかの間の出来事	(国)一年間の学びを振り返 ろう ～ポスターセッションを する～ (特)2年生になる自分
	(歴)欧米諸国における「近代 化」 (特)自分の夢と希望	(歴)近代国家への歩み (歴)帝国主義と日本	(家)地域の食材と食文化 (道)父の仕事		(地)地域を探ろう	(国)一年間の学びを振り返 ろう ～国語学習の報告書を まとめる～ (家)健康で安全な住まい (道)おもかげ復元師 (特)最上級生になる自分
1年間の子どもたちの成長を振り返り、子どもたちが自己の成長を確認する機会を持ちましょう。新しい学年へ、 希望や期待を持って進級できるようにするとともに、今後の成長のために学びに向かう力を養いましょう。						
	(公)現代の民主政治 (公)国の政治の仕組み (公)地方自治と私たち (特)将来の夢と希望	(公)消費生活と経済 (公)政府の役割と国民の福 祉 (道)「情緒」と「形」の国、日 本	(公)これからの経済と社会 (家)幼児とのふれ合い (特)中学生議会	(公)国際社会の仕組み (公)さまざまな国際問題	(国)三年間の歩みを振り返 ろう ～学びについて語り合 う～ (公)よりよい社会を目指して (家)これからのわたしと家族 (特)新しい生活を前に	(道)すばらしい青年たち

(地) …地理的分野 (歴) …歴史的分野 (公) …公民的分野 (家) …家庭分野

小学校家庭：開隆堂 小学校道徳：学研 中学校国語：光村図書 中学校地理・歴史：帝国書院 中学校公民：東京書籍

5 授業実践例

新学習指導要領では、第3学年の指導内容になります。



小学校 第3学年 社会「火事からくらしを守る」 内容2(3)ア(ア)

◆単元のねらい

○地域において、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることや、関係機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解するとともに、火災から地域の人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考え適切に表現することができる。

◆展開例

学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点 ◎キャリア教育の視点
1 本時の課題を確認する。	○消防士が出動前に行っている準備を表す写真を見て、どんなことに気づきますか。 消防士がいつでもすぐに出動することができるのは、なぜだろう。	・消防署の写真を提示し、消防士が連絡を受けてから出動するまでに多くの準備をすることについて気づかせ、本時のめあてを設定する。 ・既習の学習や見学して分かったことから予想させる。
2 消防士がいつでもすぐに出動できる理由を予想する。	○消防士がいつでもすぐに出動できるのは、どうしてだと思いますか。 ・消防署の建物の中に出動しやすい工夫があるのではないかな。 ・誰かがいつも起きているのではないか。	◎消防署の施設や整備、勤務体制等の工夫が、消防士が他者と協力・協働しつつ自分の役割をしっかりと果たすこととつながっているということを実感できるように、消防士の工夫や努力を具体的に捉えられるようにする。
3 資料からわかったことをもとに、話し合う。	○資料や見学で調べた内容からわかったことをもとに話し合います。 【施設や設備】・仮眠室がロッカーに近い。… 【勤務体制】・3つの班が交代で毎日出勤。…	◎消防士の仕事を自分たちの生活との関わりを考えるを通して、自分たちの生活が消防署で働く方々に支えられていると感じられるようにする。
4 消防士の話を書く。	○消防士の方から、すぐに出動できる理由や思いを聞きましょう。 ・消防士がいつでもすぐに出動することができるのは、火事の発生に対して一刻も早く到着して命や財産を確実に救うために、施設や設備、勤務体制に工夫をしているからだと分かった。	
5 本時のまとめをする。	・自分たちの安全な生活は、消防署で働く方々に支えられていると思った。	



【キャリア教育との関わり】

消防署などの関係機関に従事する人々が相互に連携し、地域の人々と協力して、災害から人々の安全を守る活動をしていることを調べることを通して、他者と協働して社会に参画し、よりよい社会を構成していこうとする態度の育成につながります。さらには、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」について考える場を位置付けることで、自分と社会との関係を考え、主体的に自らのキャリアを形成していく力を育むことに大きく役立ちます。

中学校 第2学年 特別活動「職場体験から生き方を見つめよう」 学級活動(3)

◆活動のねらい

○職業に関する知識や情報を得て、実際に働くことを通して、望ましい職業観や勤労観を育み自己理解を深める中で、自らの生き方に目を向けることができる。
○現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて考えることができる。

◆展開例

学習活動	指導上の留意点 ◎キャリア教育の視点
1 本時のめあてを確認する。 職場体験学習を振り返り、学んだことを交流し、自分のよさや課題点を見だし、これからの生活に生かすとよいことを話し合う。	◎事前に、自己評価カードに活動の充実度とその理由を記入させておく。 ・生徒が働いている様子をスライドで提示し、職場体験学習を想起させる。
2 職場体験学習で感じたことについて意見交流する。	・職場体験学習を振り返り、働くことや生き方に関して自分の考えを深め、今後の生活に生かすことがねらいであることをおさえる。
3 「職場体験学習中の自分」について振り返る。 ・職場体験学習中の自分、自分のよさ、これからの課題点についてワークシートに記入する。	◎働くことの意義(社会的な役割)や喜び等、分類して整理し、理解できるようにする。
4 グループで、自分のよさや改善点を発表する。	◎職場体験学習中の自分の姿を振り返り、自分自身のよさや課題点を見だし、交流する中で、互いのよさを学び合い、さらに高まろうとする意欲がもてるようにする。
5 本時のまとめをする。 ・「これからの自分」について考える。	



【キャリア教育との関わり】

職場体験学習を通して、新しい環境の中で豊かな人間関係を築きながら、様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解させていきます。人は何のために働くのか、なぜ働かなくてはならないのかを考えることは、将来、社会人、職業人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする力の育成につながります。また、体験活動を通して得られた気づきや成長を振り返り、自分のよさや課題点を見だし、自分自身の個性や適正等に関する理解と、自らの思考や感情を律するために必要な技能を高めていきます。

ふるさととキャリア教育


1 ふるさととキャリア教育で育成をめざす資質・能力

◆鳥取県教育振興基本計画 基本理念

自立して心豊かに生きる 未来を創造する 鳥取県の人づくり

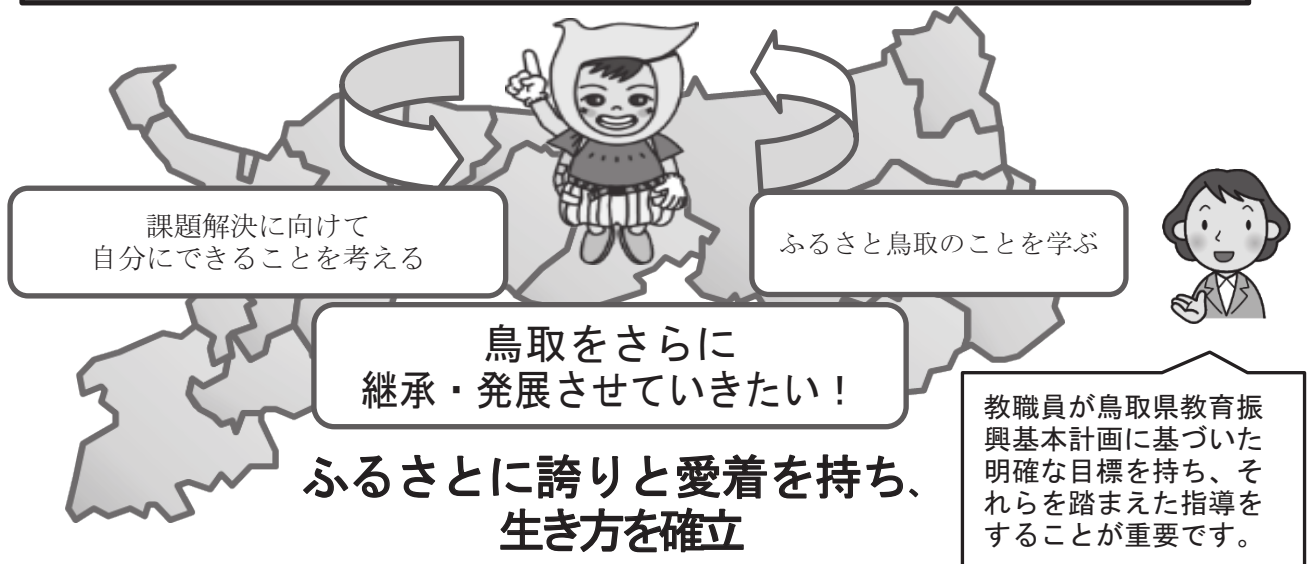
◆基本理念を支える4つの「力と姿勢」

1. 自立して生きる力
2. 豊かな心と健やかな体
3. 社会の中で支え合う力
4. ふるさとと鳥取県に誇りを持ち、未来を創造する力

- 
- ・ふるさとの自然、歴史と伝統を守り、受け継ごうとする姿勢
 - ・地域やふるさとに誇りと愛着を持ち、その発展に貢献しようとする姿勢
 - ・グローバルな視点を持ち、社会の変化に対応しながら新たな価値を創造していく力

◆鳥取県における「ふるさととキャリア教育」のめざす人間像

1. ふるさと鳥取に根差して、グローバルな視点で考え行動することができる人材
2. 鳥取県に誇りと愛着を持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度を身につけた人材
3. 社会の変化に対応しながら新たな価値を創造することができる人材
4. 自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材



2 教育課程実施上のポイント

教科等間相互の連携を図り、教科等横断的な視点でふるさとに誇りと愛着を持った児童生徒の育成を図ることが大切です。また、発達段階に応じた学校間を越えた系統的な取組の推進が求められています。持続可能な取組とするため、社会に開かれた教育課程を実現するとともに、コミュニティ・スクールの仕組み等を使い、地域と共にふるさととキャリア教育を推進することが大切です。

◆コミュニティ・スクールの仕組みを活用した「ふるさとキャリア教育」の推進

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)

学校

定義 コミュニティ・スクールとは「学校運営協議会」を設置している学校のこと

コミュニティ・スクールの主な3つの機能
【地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6】

- ・校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- ・学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる
- ・教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

学校

地域

めざす子ども像の共有

地域学校協働活動

定義 地域学校協働活動とは、地域と学校が目標を共有して行う「連携・協働」型の活動のこと

地域学校協働活動

- 協働活動** 地域人材育成、協働学習、協働防災訓練、学習・部活動支援、環境整備、登下校の見守り等
- 放課後等の学習支援** 放課後、土曜日、休日における学習、スポーツ活動等
- 体験活動** 社会奉仕活動体験、自然体験活動、職場体験等

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の取組で広がる子どもの可能性は何？

多くの大人の専門性や地域の力を生かし、子どもたちの学びや体験活動が充実し、生きる力が育まれます。

地域住民との交流の中で、地域への理解・関心が高まります。

たくさんの人との出会いにより、自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。

より安心・安全な環境の中で、学習・生活ができるようになります。

ふるさとキャリア教育を推進します!!

◆ふるさとキャリア教育に関する系統的な取組の推進 ※詳細は次ページ参照

自分の住む地域のすばらしさや魅力を知ることによって地域への愛着をもつ	自分の住む地域社会や鳥取県について体験的に学ぶことで、ふるさとの魅力を実感し自分にできることを考える	地域社会や地元企業に対する理解を深める中で、自己の生き方を考えるとともに、ふるさとの課題解決のために自分にできることを考え行動する	ふるさとに誇りを持ち、これからの鳥取県の未来を考え、貢献しようとする心を養うとともに、社会における自らの役割や将来の生き方を確立する
------------------------------------	--	---	--

地域への愛着をもとう	体験的に学び、自分にできることを考えよう	ふるさとの課題解決をめざして行動しよう	ふるさとに誇りを持ち、生き方を確立しよう
幼稚園・認定こども園 保育所	小学校・義務教育学校 特別支援学校小学部	中学校・義務教育学校 特別支援学校中学部	高等学校・特別支援学校高等部



身近な自然に親しむ



防災・安全マップづくり



地域で学ぶ職場体験



県内企業へのインターンシップ



鳥取県特別支援学校技能検定の実施

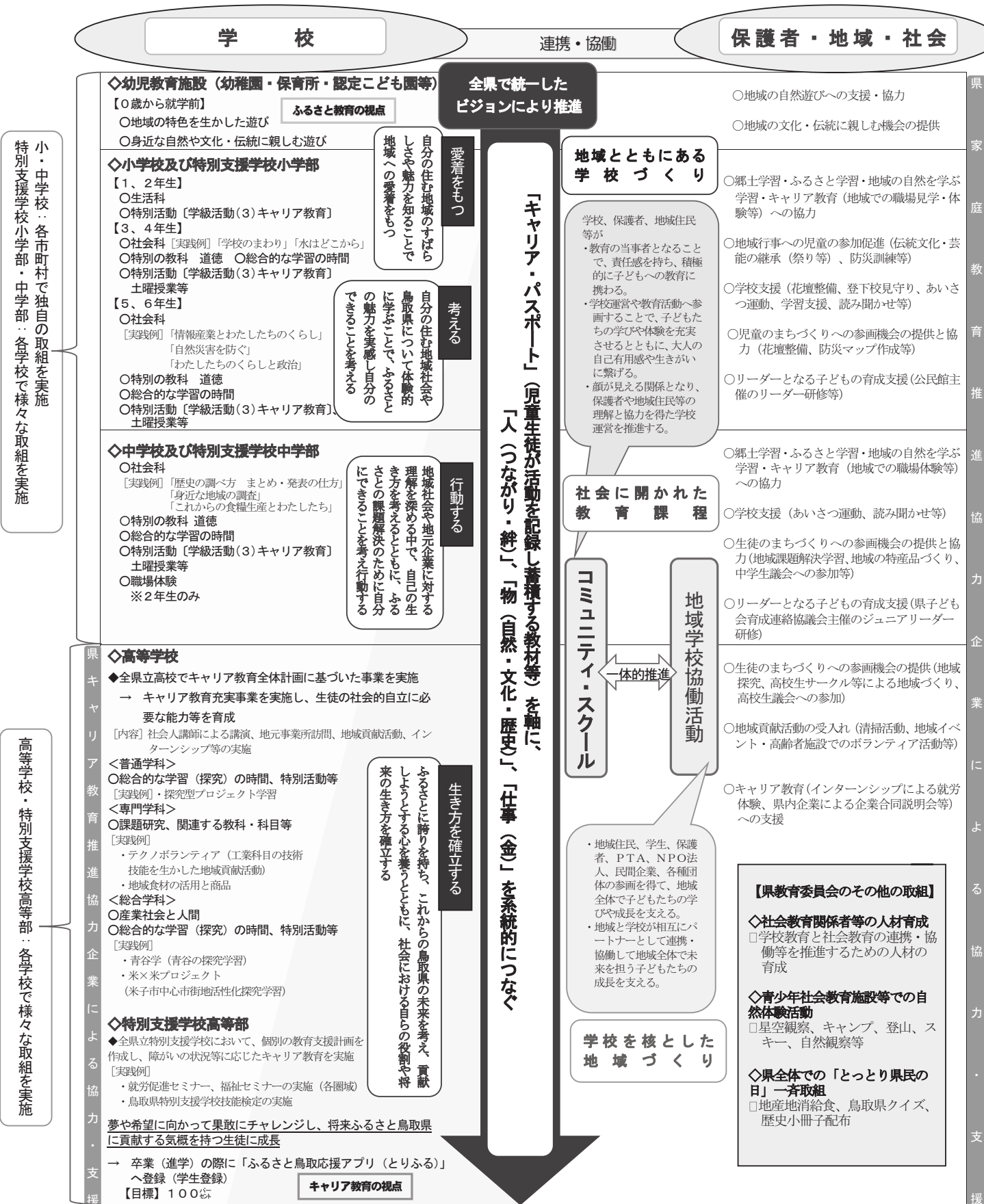
乳幼児期から高校卒業までの取組をつなぎます

キャリア・パスポート(小→高)で

ふるさとキャリア教育に関する系統的な取組の推進について

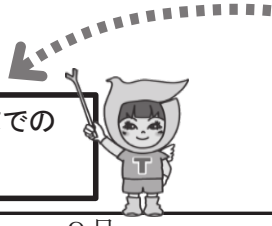
鳥取県における「ふるさとキャリア教育」のめざす人間像

1. ふるさと鳥取に根差して、グローバルな視点で考え行動することができる人材
2. 鳥取県に誇りと愛着を持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度を身につけた人材
3. 社会の変化に対応しながら新たな価値を創造することができる人材
4. 自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材



3 教科等単元配列例

ふるさとキャリア教育に関して系統的に取組を進めましょう。小学校から高校卒業までの取組をキャリア・パスポートでつないでいきましょう。



		4月	5月	6月	7月	9月	
地域への愛着をもとう	小学校	1年		(学校行事)フィールドワーク	(特)愛校活動	(道)じしんがおきて (音)県民歌を歌おう	
		2年	(道)わたしの学校	(学校行事)フィールドワーク	(道)見つけたよ	(特)愛校活動	(生)町にははっけんがいっぱい (音)県民歌を歌おう
		3年		(学校行事)フィールドワーク	(総合)地域の川の生きもの図鑑をつくろう	(道)けい君の秋田かんとうまつり (特)愛校活動	(社)店ではたらく人 (道)鬼太郎をかいたゲゲさん (音)県民歌を歌おう
		4年	(理)春の生きもの	(学校行事)フィールドワーク	(道)たな田が変身 (総合)地域の防災マップをつくろう	(特)愛校活動 (理)夏の生きもの	(社)ごみのしよりと利用 (音)県民歌を歌おう
		5年		(学校行事)フィールドワーク		(特)愛校活動	(総合)地域の伝統文化に触れよう (音)県民歌を歌おう
		6年		(学校行事)フィールドワーク (道)古きよき心	(家)クリーン大作戦	(家)クリーン大作戦 (特)愛校活動 (外)自分たちの町・地域	(社)子育て支援の願いを実現する政治 (図)わたしの感じる和 (音)県民歌を歌おう
めぐるさとの課題解決を	中学校	1年	(家)家庭の役割とはたらき		(国)「好きなもの」を紹介しよう (道)ぼくのふるさと	(特)ボランティア活動 (音)県民歌を歌おう	
		2年		(国)多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	(歴)安定する社会と諸産業の発達(鳥取藩の新田開発と特産物) (特)職場体験活動 (道)志あるところに道ありき～山下佐知子物語～	(道)祭りの夜 (道)心でいただく伝統の味 (音)県民歌を歌おう	
		3年	(特)修学旅行	(国)社会との関わりを伝えよう (外)Presentation1 日本文化紹介 (道)島唄の心を伝えたい	(道)背筋を伸ばして	(道)花火と灯ろう流し (外)Unit4 To Our Future Generations (音)県民歌を歌おう ★上級学校訪問 ★高校説明会	

職場体験・インターンシップなどの体験的な学習を効果的に活用し、地域・社会や産業界と連携しながら、学校の教育全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度を育成しましょう。

※ (国) …国語 (社) …社会 (理) …理科 (生) …生活 (道) …特別の教科 道徳 (特) …特別活動
 ※例に取り上げた教科書 小学校国語：東京書籍 小学校社会：東京書籍 小学校理科：啓林館 小学校生活：大日本
 中学校公民：東京書籍 中学校技術：開隆堂 中学校家庭：開隆堂 中学校道徳：東京書籍 中学校外国語：東京書籍

鳥取県における「ふるさとキャリア教育」のめざす人間像

1. ふるさと鳥取に根差して、グローバルな視点で考え行動することができる人材
2. 鳥取県に誇りと愛着を持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度を身につけた人材
3. 社会の変化に対応しながら新たな価値を創造することができる人材
4. 自立し、自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		(音)日本のうたをたのしもう	(道)お正月	(生)昔から伝わる遊びを楽しもう		
	(生)わたしのまちのすてきをしようかいしよう	(生)町の人に伝えたい (音)日本のうたでつながろう	(国)むかし話をしようかいしよう			(生)ありがとうをとげよう
	(社)農家(工場)の仕事 <選択単元> (総合)地域の祭りを知ろう	(道)心をつないだ合言葉 (社)事故や事件からくらしを守る		(社)古い道具		
	(社)きょう土のはってんにつくす (理)秋の生きもの	(社)きょう土のはってんにつくす (国)「ふるさとのお食」を伝えよう	(道)ふるしき1まいで (理)冬の生きもの	(社)特色ある地いきと人々のくらし		
	(道)復興への願いフェニックス	(国)和の文化について調べよう			(社)わたしたちの生活と環境 (道)もう一つの塔	(社)わたしたちの生活と環境
	(音)ふるさと (総合)地域のために私たちができること	(国)町の幸福論	(道)大みそかの朝に	(家)共に生きる 地域での生活	(国)プロフェッショナルたち (家)共に生きる 地域での生活	(社)世界の未来と日本の役割 (家)成長したわたしたち (特)卒業を前に (理)自然とともに生きる
	(国)いこしえの心に触れる	(特)文化祭		(音)日本の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう (道)郷土を彫る (総)職業調べ、先輩に学ぶ	(外)Unit11 思い出の一年 (道)花に寄せて	(国)一年間の学びを振り返ろう～ポスターセッションをする～ (外)Presentation3 思い出の行事 (道)古都の雅、菓子の心
各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など						
	(国)いこしえの心を訪ねる (地)中国・四国地方 (歴)富国強兵をめざして(産業の近代化に努力した人々)	(国)話し合っって考えを広げよう パネルディスカッションをする (美)日本の美意識 (特)文化祭	(外)Presentation2 町紹介	(音)日本の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう (道)大切なものは何? (総)上級学校調べ	(地)身近な地域の調査 (技)情報モラルと知的財産 (家)子どもの成長と家族の役割・子どもの成長と地域	(国)一年間の学びを振り返ろう～国語学習の報告書をまとめる～
	(国)いこしえの心と語らう (公)地方自治と私たち	(特)文化祭	(道)足袋の季節 (外)Presentation3 中学校生活	(音)日本の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう	(国)三年間の歩みを振り返ろう～学びについて語り合う～ (家)私たちの家庭生活と地域 (道)たんぼぼ作業所	

(地) … 地理的分野 (歴) … 歴史的分野 (公) … 公民的分野 (技) … 技術分野 (家) … 家庭分野

図書 小学校家庭：開隆堂 小学校道徳：学研 小学校外国語：啓林館 中学校国語：光村図書 中学校地理・歴史：帝国書院

4 授業実践例

小学校 第2学年 生活「わたしたちのまちのすてきをつたえよう」 内容(3)(8)

◆単元のねらい

- 地域の人や場所などに自分なりの思いや願いをもち、積極的にかかわりを広げたり深めたりするとともに、地域への愛着をもつ。
- 探検を通して、友達や地域の人とかかわることの楽しさを感じ、地域のよさに気付くとともに、自分たちの生活が地域の人や場所などとかかわっていることが分かる。

◆展開例

学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点 ◎ふるさと教育の視点
1. 本時のめあてを確認する。	自分の伝えたい「まちのすてき」を友だちにつたえよう。	・スライドを見ながら、探検を振り返る。 ・自分の伝えたいすてきを紹介しようという意欲を持つ。
2. まちたんけんに行って、名人や場所について見たものや気付いたこと、思ったことを伝え合う。	○どんなすてきを見つけましたか。 ・花屋さんには、500種類の花があるそうです。 ・○○さんは、お客さんにいい気持ちでご飯を食べてもらうために、心をこめて料理をしていると言っていたよね。だから、思いやり名人だと思ったよ。	・カードを見せながら伝え合う。 ・児童が話題を整理するために、名人とたんけん場所に分けて、ワークシートに貼らせるようにする。
3. たんけんについてグループで話したことを全体で交流する。	・【子ども110番の家】のマークがたくさんあったよ。 ・交番のおまわりさんが、朝、横断歩道に立っているのを見たよ。 ・いつも一緒に登校してくれるおじいさんがいるよ。たくさんの人が見守ってくれているんだね。	◎見たものだけでなく、人と触れあって思ったことや感じたことなども伝え合えるようにすることで、地域の人々の温かさを感じられるようにする。 ・見つけた物や気付いたことに焦点を当てたり、他のグループと似ていることに気付いたりできるように、色マジックでグループ分けをする。
4. 本時のまとめをする。		



【ふるさとキャリア教育との関わり】

自分が住んでいる地域を知ることは、自分が育った地域の良さを、将来にわたって大切にしていこうとする態度の育成や、地域への愛着の形成につながります。町探検を通して見つけたり感じたりした地域の良さは、3年生以上で学習する総合的な学習の時間の基礎となり、さらに発展していきます。

中学校 第3学年 社会「地方自治と私たち」 内容(3)イ

◆単元のねらい

- 自分たちが住む地域社会への関心を高めさせ、住民の一人として、地方自治の発展に寄与しようとする自治意識の基礎を育てる。
- 地方自治について、国と地方公共団体の比較を通して多面的・多角的に考察させるとともに、主権者としての政治参加の在り方について考えさせる。

◆展開例

学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点◎ふるさと教育の視点
1. 本時目標を確認する。	○住み続けたい「○○市(町・村)」にするためにどのようにしたらよいかという問いについて考えることを伝える。	・課題解決の視点だけでなく、長所や強みを伸ばすという視点でも考えられるよう伝える。
2. 自分の住む市(町・村)の長所や強み、課題について確認する。	○さまざまな資料をもとに○○市(町・村)の特徴を読み取り、○○市(町・村)の現状を理解する。 ・ぼくの市は、教育・子育てに力を入れている。	◎長所や強みを生かし伸ばす視点で考えることで、ふるさとへの肯定的な見方が育まれるように努める。
3. 住みたい○○市(町・村)にするためにどのようにしたらよいか、自分の考えを発表する。	◎住みたい○○市(町・村)にするためにどのようにしたらよいか ・公園を整備し、子どもが楽しく遊べて緑豊かな○○市を実現します。そのために…	・既習事項をふまえ、具体的な方法にもふみこんで発表させる。 ・考えたことを市(町・村)に実際に提案するなど、社会とのつながりをもつようにする。
4. 振り返りをする。	○学習を振り返り、どのような取組を進めることが○○市(町・村)にとって必要か、考えをまとめる。	・住み続けたい○○市・町・村にするための方策について、「効率と公正」の見方・考え方をふまえて表現させる。



【ふるさとキャリア教育との関わり】

身近な地方公共団体の政治について取り上げることにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることにつながります。

5 ふるさとキャリア教育に係る「キャリア・パスポート」の活用

◆「ふるさとキャリア教育」における「キャリア・パスポート」活用の考え方

小・中・高等学校及び特別支援学校学習指導要領総則において、児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」について明示された。

また、同特別活動においては「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に、児童生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」とされたところである。

令和2年4月からすべての学校で「キャリア・パスポート」の作成・活用が義務付けられたところであるが、鳥取県内の小中学校及び高等学校における「ふるさとキャリア教育」を推進していくツールとして「キャリア・パスポート」を活用することとしている。小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、ふるさとでの学びや様々な取組を通して自らの学習状況やキャリア形成を見通し、振り返りながら自己評価を行うとともに、ふるさとでの学びを生かしながら主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるものであると考えている。教職員にとっては、その記述をもとに児童生徒に対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するものとなる。

新学習指導要領の記載〔中学校の場合〕

- ・中学校学習指導要領前文「(前略) 生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育及び小学校教育の基礎の上に、高等学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、生徒の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに中学校学習指導要領を定める。」
 - ・中学校学習指導要領第1章総則第3の1の(4)「(前略) 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。」
 - ・中学校学習指導要領第5章特別活動第2〔学級活動〕3内容の取扱い「(2) 2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」
- ◎「キャリア・パスポート」の「3つの意義」 ※中学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）
- ▶一つ目は、中学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になることである。
 - ▶二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資するということである。
 - ▶三つ目は、生徒にとっては自己理解を深めるためのものなり、教師にとっては生徒理解を深めるためのものとなることである。

文部科学省通知による内容（抜粋） 平成31年3月29日付け「キャリア・パスポート」例示資料等について

(1) 目的

- 小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。
- 教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

(2) 「キャリア・パスポート」の定義

- 児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。
- その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

(3) 内容



学習指導要領解説特別活動編「(前略) こうした教材については、小学校から高等学校卒業(特別支援学校を含む。以下同じ。)まで、その後の進路も含め、国や都道府県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各地域・各学校における実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことが期待されています。

- ①児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする
- ②学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする
- ③学年、校種を越えて持ち上がることができるものとする
- ④大人(家族や教師、地域住民等)が対話的に関わることができるものとする
- ⑤詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする
- ⑥学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合にはその内容及び実施時間数にふさわしいものとする
- ⑦カスタマイズする際には、保護者や地域などの多様な意見も参考にすること
- ⑧通常の学級に在籍する発達障がいを含む障がいのある児童生徒については、児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて指導すること。また、障がいのある児童生徒の将来の進路については、幅の広い選択の可能性があることから、指導者が障がい者雇用を含めた障がいのある人の就労について理解するとともに、必要に応じて、労働部局や福祉部局と連携して取り組むこと
- ⑨特別支援学校(学級)においては、個別の教育支援計画や個別の指導計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられる場合は、児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容とする

小学校入学から高等学校卒業までの記録を蓄積する前提の内容とします。各シートはA4判(両面使用可)に統一し、各学年での蓄積は数ページ(5枚以内)とします。
※片面10枚も可



教科・科目のみ、学校行事等のみの自己評価票とならないように留意が必要です。

①教科学習 ②教科外活動 ③学校外の活動 の3つの視点で振り返り、見通しが持てるような内容としてください。

※②は学校行事、児童会活動・生徒会活動やクラブ活動、部活動など①以外の学校内での活動
③は、ボランティア等の地域活動、家庭内での取組、習い事などの活動

児童生徒が記録する日常のワークシートや日記、手帳や作文等は、「キャリア・パスポート」を作成する上での貴重な基礎資料となりますが、それをそのまま蓄積することは不可能かつ効果的ではなく、基礎資料を基に学年もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見通しができる内容とします。

(4) 指導上の留意点と管理

- ①キャリア教育は学校教育活動全体で取り組むことを前提に、「キャリア・パスポート」やその基礎資料となるものの記録や蓄積が、学級活動・ホームルーム活動に偏らないように留意すること
- ②学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、学級活動・ホームルーム活動の目標や内容に即したものとなるようにすること
- ③「キャリア・パスポート」は、学習活動であることを踏まえ、日常の活動記録やワークシートなどの教材と同様に指導上の配慮を行うこと
- ④「キャリア・パスポート」を用いて、大人(家族や教師、地域住民等)が対話的に関わる
- ⑤個人情報を含むことが想定されるため「キャリア・パスポート」の管理は、原則、学校で行うものとする
- ⑥学年、校種を越えて引き継ぎ指導に活用すること
- ⑦学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行うこと
- ⑧校種間の引き継ぎは、原則、児童生徒を通じて行うこと
- ⑨装丁や表紙等についても、設置者において用意すること。その際には、一定の統一性が保たれるよう工夫すること



たのをる特
記状要指別
録態す導支
ややるを援
蓄特児受学
と及生るに
なび徒児在
る心に童籍
よ身つ生す
うのい徒る
に発て等児
ま達は、童
す段の、生
まの、特
す段の、徒
す。階々特、
等。等別通
に障な級
応が配に
じい慮よ

- 鳥取県では、学校段階を越えて活用するために、「小学校第6学年」、「中学校第3学年」及び「高等学校第3学年（最終学年）」の最終シート（3シート分）については、全県で統一する。
- ふるさとキャリア教育の充実を図るため、キャリア・パスポートを活用する。各学校で実施されるふるさとに関する学習を行った後、子どもたちの記録を残すことで、ふるさと鳥取に誇りを持ち、未来を創造する児童生徒の育成につなげることとする。
- 職場体験に関する内容を記載するシートを設ける。（中学校・義務教育学校（後期課程））
- 年度初めのシートに、夢や目標について記載する項目を設ける。 *シートは任意
- 年度終わりのシートに、地域に関する内容を記載する項目を設ける。 *シートは任意

鳥取県におけるキャリア・パスポートの構成例

	1ページ	2ページ	3ページ	4ページ	5ページ	6ページ	7ページ	8ページ	9ページ	10ページ
	学活(3)・特活		地域(学校)						学活(3)・特活	
小1	小1 初め *夢・目標		地域学習						小1 振り返り *地域について	
小2	小2 初め *夢・目標		地域学習						小2 振り返り *地域について	
小3	小3 初め *夢・目標		地域学習						小3 振り返り *地域について	
小4	小4 初め *夢・目標		地域学習						小4 振り返り *地域について	
小5	小5 初め *夢・目標		地域学習						小5 振り返り *地域について	
小6	小6 初め *夢・目標		地域学習						小学校6年間の振り返り *地域について	
中1	中1 初め *夢・目標		地域学習						中1 振り返り *地域について	
中2	中2 初め *夢・目標		地域学習	職場体験					中2 振り返り *地域について	
中3	中3 初め *夢・目標		地域学習						小学校から中学校までの9年間の振り返り *地域について	
高1	高1 初め *夢・目標		地域探究 地域課題解決型学習 地域貢献活動等	インターンシップ					高1 振り返り *地域について	
高2	高2 初め *夢・目標								高2 振り返り *地域について	
高3	高3 初め *夢・目標								小学校から高等学校までの振り返り *地域について	

留意事項	<p>○小学校から高等学校までの各学年初めのシートは、「夢・目標」に関する記入項目を入れること。(県例示資料参考)その他の記入項目は任意でよい。</p> <p>○文部科学省事務連絡「『キャリア・パスポート』の例示資料等について」(平成31年3月29日付)及び留意事項を参照すること。</p> <p>○「各シートはA4判(両面使用可)」に統一し、各学年での番種は数ページ(5枚以内)とすることとあることから、5枚を必ず作成する必要はない。</p> <p>○児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見直し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。</p> <p>○小学校入学から高等学校卒業まで、学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする。</p> <p>○学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする。(①教科学習②教科外活動③学校外の活動の3つの視点で振り返り、見直しが行われるような内容とする)</p> <p>○大人(家族や教師、地域住民等)が対話的に関わることができるものとする。</p> <p>○各地域や学校の実情に合わせたカスタマイズや、各学校や学級における創意工夫を生かした形での活用が可能なものとなるよう検討すること。</p> <p>○「地域学習」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校種、地域とかかわる学習のシートを入れること。記入項目は任意でよい。 ・中学2年生の「職場体験」に関するシートを入れること。その場合、「地域学習」と入れ替えてもよい。 ・高等学校における「総合的な学習(探究)の時間」、「課題研究」等で扱う地域探究活動、地域課題解決型学習、地域貢献活動等に関するシートを入れること。 ・高等学校における「インターンシップ」に関するシートを入れること。 	<p>○小学校から高等学校までの各学年末のシートは、「地域について」の記入項目を入れること。(県例示資料参考)その他の記入項目は任意でよい。</p> <p>○「小学校第6学年」、「中学校第3学年」及び「高等学校第3学年(最終学年)」の最終シートについては、全県で統一している様式を使用すること。なお、項目は追加してもよい。</p>
------	--	---

中学校から高等学校への引き継ぎ 令和2年度末→令和3年度初め 開始

▼中学卒業時、本人に返却され、入学生徒が高校入学時に担任等に提出。

→中学校の先生方へ
生徒への返却時に、「紛失に注意し、高校入学時に提出すること」について、指導をお願いします。

→高校の先生方へ
「入学時提出物一覧」に「キャリア・パスポート」を追加し、入学生徒への周知をお願いします。

◆「キャリア・パスポート」に係るよくある質問（FAQ）

（令和2年3月時点）

（1）「キャリア・パスポート」について

質問	回答
Q1：「キャリア・パスポート」のシートは各学年何枚ですか。	A1：学年、校種を越えて持ち上ることを前提とし、 <u>各学年A4両面5枚以内（片面10枚以内も可）</u> とします。 ※とびらや付録のページは5枚以内に含みません。
Q2：「キャリア・パスポート」の管理は誰がするのですか。	A2：「キャリア・パスポート」に個人情報が含まれることが想定されますので、 <u>原則、学校で行ってください</u> 。また、個人情報の保護や記録の紛失にも十分留意してください。
Q3：学年間や校種間の引継ぎはどのようにしたらいいですか。	A3： <u>学年間の引継ぎは、原則、教職員間で行ってください</u> 。（指導要録等の引継ぎと同様） <u>校種間の引継ぎは、原則、児童生徒を通じて行ってください</u> 。 ※小学校から中学校への引継ぎは、指導要録の写し等と同封して送付することも考えられます。 ※中学校から高等学校への引継ぎは、生徒を通じて行います。 （中学卒業時に生徒本人に返却し、高校入学時に生徒本人が高校の担任へ提出）
Q4：転出入の児童生徒への対応はどのようにしたらいいですか。	A4： <u>転出入の児童生徒への対応は、原則、学校間で行ってください</u> 。 ※指導要録等の引継ぎなど、転出入の手続きと同様
Q5：「キャリア・パスポート」の破損や紛失への対応はどのようにしたらいいですか。	A5：破損や紛失等があった場合には、他の教材等と同様に対応してください。破損や紛失等がないように児童生徒への注意喚起をお願いします。また、記録をPDF等でデータ保存しておくことも有効です。

（2）「キャリア・パスポート」の内容について

質問	回答
Q6：とびらには、どのようなことを書けばいいですか。	A6：自校の学校教育目標等に基づいて、各発達段階における成長について、学校が期待していることを書きましょう。とびらのシートを活用して、地域や学校の実態に応じてメッセージを加えてください。
Q7：県全体で共通するシートはありますか。	A7：小6と中3のシートについては、次の学校段階等での活用を考えて、原則、共通シートを考えています。ただし、各学校の実態に応じて、項目を追加することは可能です。 それ以外のシートについては、各地域や学校の実態に応じて作成してください。ただし、以下の内容を入れていただきたいと考えています。 ※年度初めのシートに夢や目標について記載する項目を設ける。 ※年度終わりのシートに、地域に関する内容を記載する項目を設ける。 ※中学校については、職場体験に関する内容を記載するシートを設ける。
Q8：共通シート以外の内容については、誰が決めるのですか。	A8：「キャリア・パスポート」は、それぞれの地域や学校の実情、児童生徒の実態に合わせ、カスタマイズすることとなっています。そのため、蓄積する記録の中身は決められておらず、文部科学省から「例示資料」として参考にしていただけるものが示されています。
Q9：「キャリア・パスポート」に蓄積するものは、児童生徒が記録した日常のワークシートや作文でもいいですか。	A9：これまでに既に取り組みされてきたワークシートや基礎資料を活用してください。その際には、学年、もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見通しができる内容となっているか確認してください。
Q10：学校外の活動は、どのようなものを想定したらよいですか。	A10 ボランティア等の地域活動、家庭内での取組、習い事などの活動が含まれます。

(3)「キャリア・パスポート」の記入について

質問	回答
Q11:「キャリア・パスポート」は、学級活動の時間に記録するのですか。	A11:学級活動・ホームルーム活動以外の教科・科目や学校行事、帰りの会やショートホームルーム等で記入することも十分に考えられます。学級活動で記入させる場合は、1単位時間の学習が、記入する活動のみに留まることなく、記入したものをういて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程を重視することが大切です。
Q12:うまく書けない児童生徒への対応はどのようにしますか。	A12:「キャリア・パスポート」への記入は、学習活動であることを踏まえ、各教科等の日常の指導に準じて、個に応じた支援を行ってください。その場で書けなくても面談や対話の機会を通じて引き出すことも考えられますが、本人の意思と反する記録を強いる必要はありません。
Q13:特別な配慮を要する児童生徒についてはどのように配慮しますか。	A13:特別な配慮を要する児童生徒については、個々の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた記録や蓄積となるようにしましょう。個別の教育支援計画や個別の指導計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられる場合は、児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容としましょう。
Q14:なぜ、大人(家族や教師、地域住民等)による記入が必要なのですか。	A14:大人が対話的に関わることで、児童生徒の自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けられることが期待されます。学習指導要領にも、「児童生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割である」と示されています。
Q15:電子データとして入力し、蓄積してもよいですか。	A15:電子データとして入力しても構いません。ただし、個人情報保護の観点から、セキュリティ管理が求められますので、市町村(学校組合)教育委員会の判断が必要となります。

(3)「キャリア・パスポート」の活用について

質問	回答
Q16:高校ではどのような活用を想定していますか。	A16:以下のような活用を想定しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・担任等が行う生徒の個人面談の参考にする。特に高校入学当初は、中学校卒業までの記録内容を参考にした生徒理解が可能となる。 ・入学当初、中学校卒業までを振り返り、その後の高校生活を見通した目標や具体的なスケジュールを立てる。 ・インターンシップの際、中学校の職場体験学習を振り返り、事前に意欲を高め、事後の自己評価に生かす。 ・総合的な学習(探究)の時間、課題研究等における地域に関連する学習に取り組む際、発達段階における地域とのかかわりを振り返り、高校生として地域における役割や貢献できることを考えることに生かす。 ・高校卒業後の進路を考える際、自らの発達段階における夢や目標を振り返り、進路決定の材料とする。
Q17:ふるさとキャリア教育とどのように関連させるのですか。	A17:キャリア教育のめざすところは、児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることです。児童生徒が、今生きている社会(地域)につながり、学校で学んだことが自らの生活に生かされる経験を積み重ねることで、育成されま。ふるさと鳥取について学び、考え、行動したことなどを記録に残していきましょう。